



# ŌMIYA NEWS



No.161 2024年3月22日 JR 東労組大宮地本

大地申  
第19号

## 「浦和東営業総括センター(吉川美南駅・さいたま新都心駅)の業務体制の見直しについて」に関する申し入れ交渉開催 その1

3月7日大地申第19号の団体交渉を行いました。主な議論内容です。

### 1. 今施策の目的と根拠及び職場組合員のメリットを明らかにすること

回答:グループ経営ビジョン「変革2027」の実現に向け、効率的でより生産性の高い業務執行体制を構築し、当社グループの持続的な成長につなげていくため、業務体制を見直すものである。

組:本施策は提案時にも議論したが、業務量の減や新たなシステム導入など示されておらず、示されたのは体制の減だけである。どのように生産性が向上するのか具体的に教えていただきたい。

会:過去にわたり券売機や精算機の機器改修を進めてきた。段階的に機能向上してきており、IC・Suicaの普及により改札窓口での現金精算が減少している。窓口の精算件数は14年度から比較するとさいたま新都心で8割減、吉川美南で6割減である。お客さまの利用状況を鑑みてこのタイミングで提案したところである。

組:さいたま新都心は21年度に「みどりの窓口」閉鎖により、体制を変更している。当時、「総合的に勘案して」と言われていた。14年度と比較するのはおかしいのではないか。

会:14年度と比較する根拠はアップルペイの導入が15年度にあり、大きく変化した。21年度の体制変更時は「据え置く」とも総合的に判断した結果。取り巻く環境なども含めて全体的に見ている。

組:率直な職場の声は、今施策にメリットを感じない。業務量が変わらないのに人が減るので不安。現行、管理者は改札には入らないため、しわ寄せは休憩中の一般社員にくる。また企画業務を行う時間もなくなるが業務は変わらない。我々にはプラスの要素が見えない。メリットを示すべき。

会:日々の仕事を踏まえてのご意見として受け止める。社員がメリットを感じえないということは説明不足である。一番は働く人の考え方である。世の中が変わっていく中で会社として進むべき方向性をしっかりと伝えていかなければいけない。出面は変わるが社員が出ていくわけではないので柔軟に体制が組めるようになる。また働き方として日勤を求める方もいるのでメリットと考える。

## 日勤や年休を入れやすい等、柔軟な体制が組めることがメリットと確認!

### 2. 施策実施以降、現場で行う企画業務の進め方について考え方を明らかにすること。

回答:これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔軟な働き方を実現していくために、系統や事業分野を超えた業務を行うこととなる。

組:示されている作業ダイヤの案では企画業務を行える時間がほとんどなくなっている。施策実施以降は、どのように現場での企画業務を進めていく考えか。

会:企画業務に充てられていた時間が減少するのは事実である。時間帯によってインターホンの設置など現場で様々な工夫をしながら時間をつくっている。また営統セ内で業務の振り分けを行っていく考えである。決して超勤前提ではない。

組:現行でも多くの人が毎月20時間前後の超過勤務を行っている。体制変更後、超過勤務が増加することを懸念している。また勉強会資料の作成など時間がなければ質が低下することも考えられる。

会:施策の実施により、超過勤務が増加するとは考えていない。駅単体ではなく営統セ全体で調整していくことになる。勉強会資料の質が低下しないように管理者が意識して業務指示することが必要なので支社として伝えていく。

## 職場組合員の健康面に配慮した業務量の調整が必要だ! その2へ



大地申  
第19号

## 「浦和東営業総括センター(吉川美南駅・さいたま新都心駅)の業務体制の見直しについて」に関する申し入れ交渉開催 その2

3. 施策実施以降、異常時の体制について明らかにすること。

回答:異常時については、箇所総体で対応することとなる。

組:列停が扱われた時の対応はどうなるのか。現場への駆け付け、改札対応、放送案内、指令とのやりとりと更に復帰に向けては現場及び監視盤と体制変更後の人数ではかなりの時間を要することになる。

会:時間帯によってケースバイケースである。場合によっては相番を起こすなどの対応もありえる。時間を要しても構わないのでしっかり安全を確認していただきたい。体制変更については指令にも説明していく。

4. 吉川美南駅の改札窓口の防犯対策を行うこと。

回答:必要な防犯対策は実施しているところである。

組:施策実施後は事務室が空になることが想定される。有人改札の自動ドアを施錠してからの駆けつけでは時間を要するのでカウンターで施錠できるように改善していただきたい。

会:要望は受け止め検討していく。また定めた手順で行っていただければ社員の責任を問うことはない。

**手順通り行えば責任を問うことはないと確認!**

5. さいたま新都心駅のイベント開催時は日勤を配置し改札体制を強化すること。

回答:必要な体制は確保していく考えである。

組:施策実施以降はイベント日勤をつけなければ改札は常に1人体制となる。イベント時は窓口の精算だけでなく、遺失物対応にも苦労している。営統セから応援できるように教育を行い、毎回、イベント日勤を配置していただきたい。

会:すべて応援体制とはならない。イベントの規模を見て営統セ総体で体制をとっていく。必要な教育は行っていく。

**営統セ総体でイベント時の体制を組めるように教育を行うことを確認!**

6. さいたま新都心駅はお身体の不自由な方のご案内に課題があることから警備員を増員すること。

回答:必要な体制は確保しているところである。

組:定期的にミスが起こるのは要員不足が原因である。イベント時は日勤がつけられず警備員が超勤しているのが実態。課題が解決されていないのに体制変更でチェックが軽くなってはいけぬ。警備員を増配置すべき。

会:警備員の時間外労働は認識している。増員の考えはないが警備員の配置時間の変更などは検討していく。チェック体制が軽くなることはない。営統セと連携してミスを防ぐことは考えていく。

**お身体の不自由な方のご案内で誤りが発生しないようチェック体制をとっていく事を確認!**

7. 職場が要員不足を感じていることから施策実施以後は十分な要員を配置すること。

回答:必要な体制は確保していく考えである。

組:他駅勤務の実態は見習い期間が空いてしまうのが負担。一定期間集中して見習いできるだけの要員配置をしていただきたい。

会:集中して身に付けたいというのは理解する。勤務操配などの苦労を受け止め今後も現場に対する配慮は継続して行う。

**職場の勤務操配の苦労を受け止め必要な配置を行っていく事を確認!**

**交渉確認を遵守し「安全・健康・ゆとり」ある職場を創りだそう!**